

自然・環境

福山市の人口・大きさ・様子

1 福山市の人口と大きさ

福山市は広島県東部にあり、県では2番目に人口の多い町です。海辺にあり、交通が便利で、港の近くには大きな工場があります。田や畑は、市の中心部から少し離れた所に広がっており、市の中心部や人口が増えている所には、店が多く集まっています。また、山を削ったり、田畑を埋め立てたりした所には、住宅も増えています。福山市の北部には、景色の美しい山野峡や藤尾の滝があり、南部には漁業が盛んな走島や内海があります。

[2021年(令和3年)2月末現在]

【人口】 男：227,412人 女：238,962人 計466,374人

【大きさ】 東西：約29.5km 南北：約45.7km 広さ：517.7km²

2 福山市の様子

(1) 工場の多い所

福山市は、工業が盛んな町です。海を埋め立てて作られた箕沖工業団地や、大きな製鉄所を始め、沼隈には造船所、神辺には電子、電気関連の工業団地、新市から駅家・神辺には、服や織物を作る工場が多くあります。



[大きな製鉄所]

(2) 田や畑の多い所

田や畑が多くある所は、加茂・駅家・芦田・御幸・新市・神辺などの地域で、米作りや野菜作りが行われています。また、神辺では桃、沼隈ではぶどうなど、果物作りも盛んです。

しかし、田や畑があった所に大きな店や新しい家が建ったり、道路が広くなったりして、近頃では、広々とした田や畑のある所が少なくなっています。



[新市の水田]

(3) 店の多い所

春日・南蔵王・駅家・瀬戸・神辺など、人口が増えている所には、広い^{ちゅうしゃ}駐車場のあるスーパーマーケットやレストランなどが集まっています。

福山駅に近い商店街では、自動車で買い物に来る人に便利のように、近くの駐車場に車を停めることができますようにしています。



〔神辺のスーパーマーケット〕



〔福山駅の近く〕

(4) 住宅の多い所

福山に大きな工場ができてから、多くの人に移り住むようになりました。そのために、まわりの山を削ったり、田や畑を埋めたりして、次々と新しい家や団地が増えてきました。また、^{こうそう}高層マンションも増えています。



〔明王台団地〕



〔高層マンション〕

(5) 山あいの町

福山駅から1時間ほどバスに乗ると山野町に着きます。近頃は道路がよくなり、市街地に通うのも楽になりましたが、冬になると雪が降り、道路が滑りやすく大変なこともあります。

山のふもとには、段々畑が広がっており、こんにゃく・ぶどう・しいたけ・栗^{くり}などの特産物があります。また、^{おだかわ}小田川に沿って、^{たなだ}棚田も広がっています。斜面を利用して^{しゃめん}ため、一つひとつの田は狭く、形も整っていないのが特徴です。



〔山野のたな田〕

(6) 島の町

走島は、鞆から7km離れています。走島には、465人ほどの人が暮らし、ほとんどが漁業で暮らしを立てています。

昔からいりこ作りが盛んで、のりの養殖ようしよくも行われています。

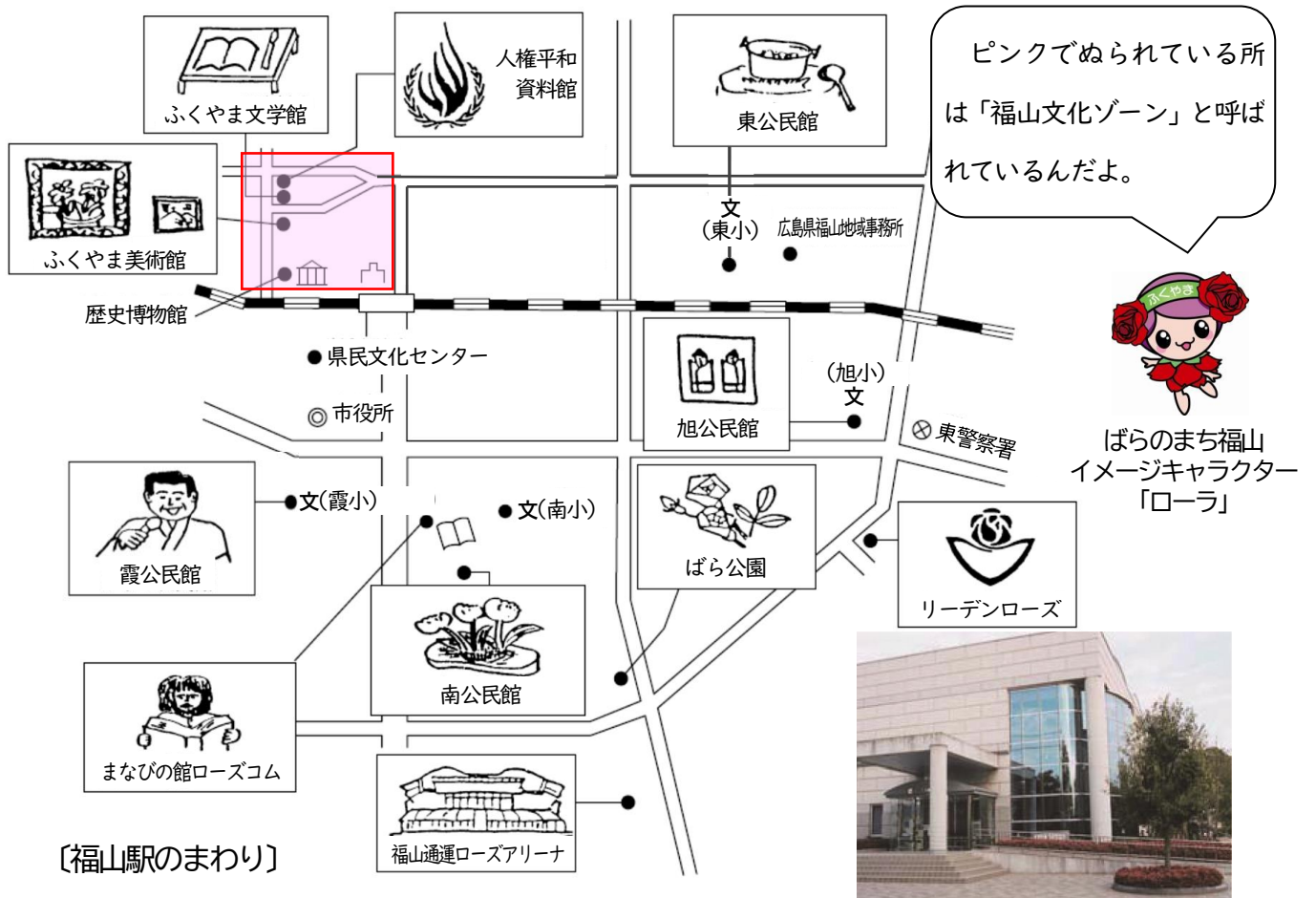
暮らしに大切な水や電気は、鞆から海の底を通して送られてきます。また、病気をみてもらう診療所しんりょうじょがありますが、重い病気や救急のときなどの心配がなくなったわけではありません。



[走島の港]

3 わたしたちのくらしと市の施設

わたしたちの住んでいる福山市には、市が作った建物がたくさんあります。



〔人権平和資料館〕



〔まなびの館ローズコム〕



〔ふくやま美術館〕



〔ふくやま文学館〕



〔リーダーローズ〕



〔ばら公園〕



〔福山通運ローズアリーナ〕

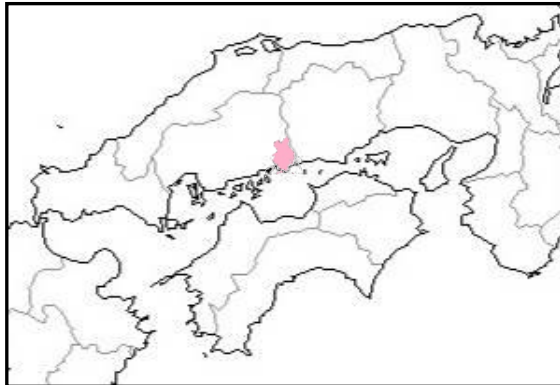
自然・環境

福山市の位置と気候

福山の端は、どこなんだろうね。

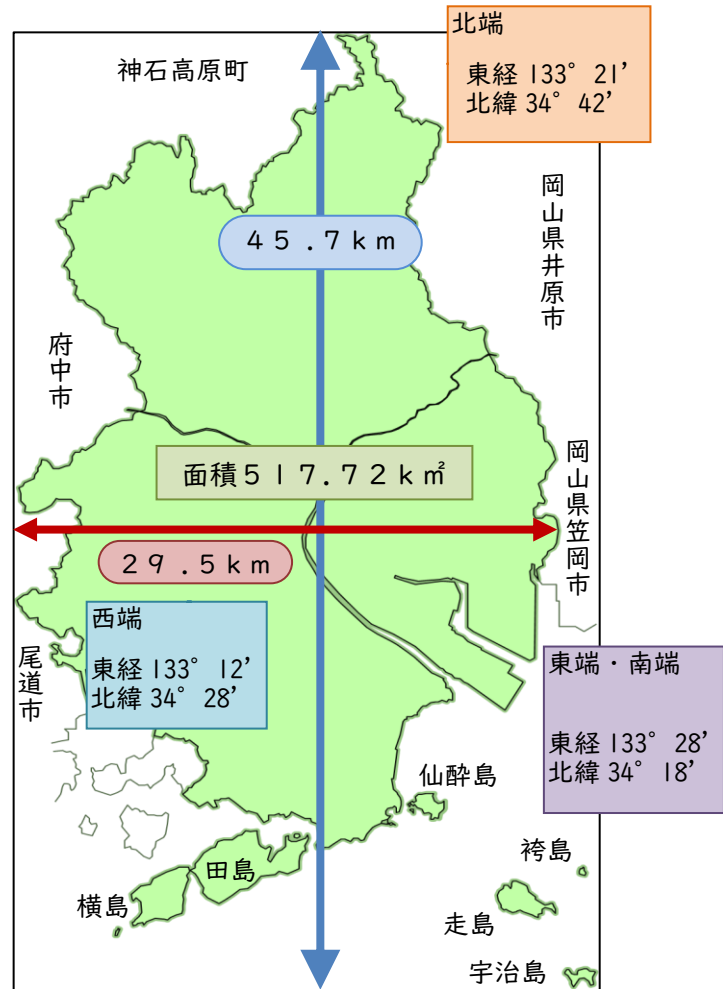


1 位置



福山市は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する広島県の南東部にあります。

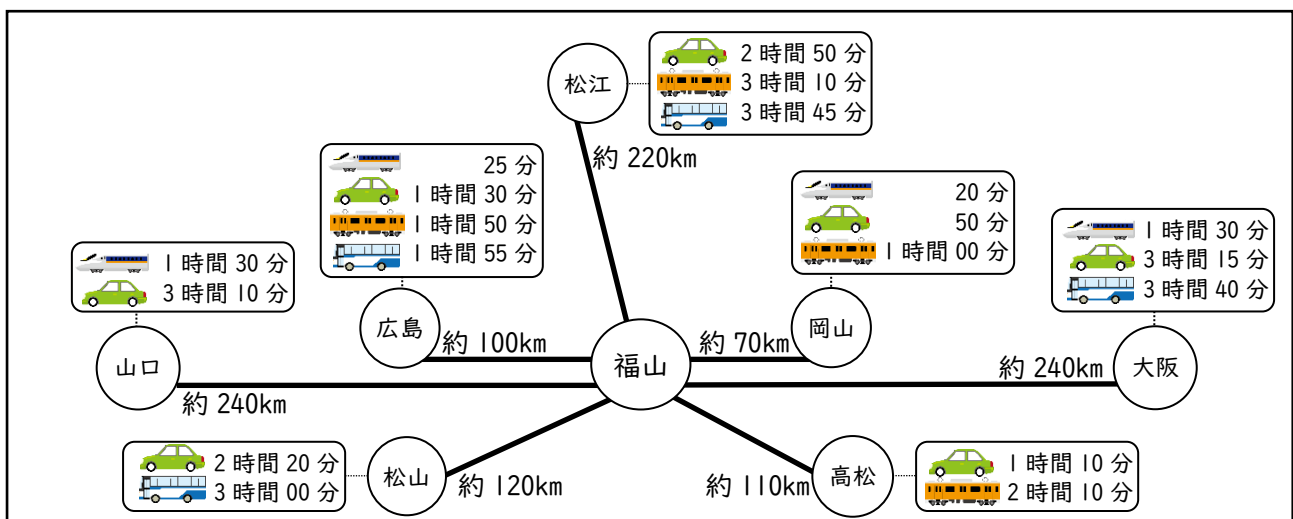
芦田川河口付近の福山平野に市の中心部があり、福山駅を中心にして市街地が広がっています。南部には瀬戸内海が広がり、北部には吉備高原の西南端部（通称「神石高原」）にあたる山々が連なっています。



広島県の東の端にある福山市を中心とする地域は、「福山（備後）都市圏」と呼ばれていて、近隣の府中市・尾道市・神石高原町などや、岡山県南西部の笠岡市や井原市と連携をしているんだよ。

2 他地域とのつながり

(1) 近隣市との距離



(2) 交通網



福山市は、東西に幹線道路(国道2号・山陽自動車道)とJR(山陽本線・山陽新幹線)が通り、他地域の主要都市とつながっています。また、東の倉敷市・西の尾道市を經由し、山陰や四国ともつながりを持つことができます。広島県東部地域の交通の中心に位置していると言えます。

3 気候

福山市は、比較的温暖で雨の少ない典型的な瀬戸内海気候に属し、夏季の朝夕には、瀬戸内海沿岸特有の「凧」が発生します。また、冬から春にかけては、偏西風の影響で、中国大陸から飛来する黄砂が観測されることも多くあります。近年は、夏のゲリラ豪雨発生や、PM2.5の観測などの大気汚染が問題になっています。

<福山市 過去10年間の月別気温・降水量>

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	最高	9.8	10.4	14.2	19.2	24.4	27.0	31.4	33.3	28.9	23.5	17.5	11.7
	最低	-0.5	0.5	3.1	8.1	13.1	18.5	23.3	24.3	19.9	13.7	7.1	2.0
	平均	4.3	5.2	8.5	13.7	18.8	22.5	27.0	28.3	24.0	18.3	12.1	6.6
降水量		31.3	49.6	88.6	88.0	102.0	206.7	196.6	103.2	163.9	115.0	49.4	58.4

[統計期間：2010年(平成22年)～2019年(令和元年)]

自然・環境

福山市の地形と自然観光資源

1 福山市の地形

(1) 地形の特徴

福山市の地形は、北部に標高200m～500m程度のなだらかな高原や丘陵が連なっています。中部から南部にかけては、芦田川が運んだ土が河口に堆積した三角州が広がり、都市部を形成しています。

〔市役所から見た風景〕

北側



南側



(2) 主な山と川

北部の丘陵地帯に標高500mを超える山が、神村町や芦田町、グリーンラインのある沼隈半島には、400m級の山があります。

■標高ベスト10

(単位：m)

	名称	標高	所在地
1	京ノ上山	611.2	新市町
2	蛇円山	545.8	駅家町
3	笠木山	512.5	加茂町
4	馬乗山	500.3	山野町
5	熊ヶ峰	437.9	熊野町, 水呑町

	名称	標高	所在地
6	彦山	430.1	熊野町, 瀬戸町
7	大谷山	401.3	神村町, 芦田町
8	高増山	399.2	津之郷町, 駅家町
9	天神山	387.5	新市町
10	夏霧山	349.6	沼隈町, 熊野町

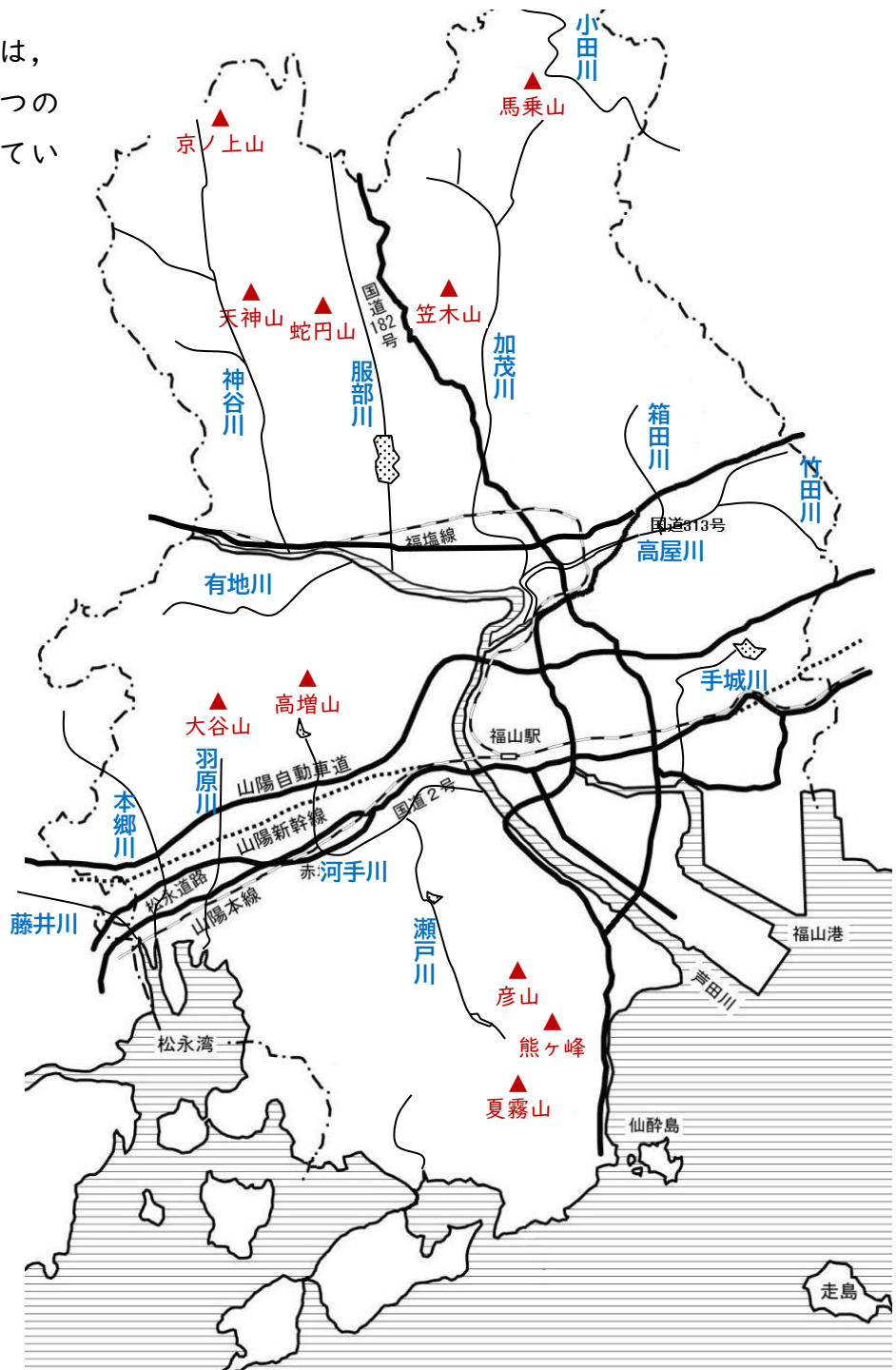
*標高：国土地理院の基準点

福山の主な河川は、
芦田川水系など5つの
水系の川が集まっています。

芦田川水系	芦田川, 有地川, 神谷川, 服部川, 加茂川, 高屋川, 箱田川, 竹田川, 河手川, 瀬戸川
高梁川水系	小田川
藤井川水系	藤井川
本郷川水系	本郷川
羽原川水系	羽原川

〔福山を流れる川〕

多くの山や川は、
わたしたちの生活に
どんな影響^{えいきょう}を^{あた}与えて
いるのかな。



2 福山市の自然観光資源

(1) 県指定の天然記念物（地質）

名 称	所 在
矢川のクリッペ	山野町
上原谷石灰岩巨大礫	山野町
仙酔島の海食洞	鞆町

名 称	所 在
仙酔層と岩脈	鞆町
福山衝上断層	木之庄を起点に 笠岡まで

《 山間部の天然記念物 》

かみはらたに きよだれき 上原谷石灰岩巨大礫（山野町）

高さ30m、幅33m、奥行35m以上の巨大な岩のかたまりです。かたまりの下には大きな洞穴があり、天井から鍾乳石が垂れ、石筍も成長しており、鍾乳洞のように見えるところもあります。



今から約1億5000万年前頃に、大きな地殻変動があり、上方の石灰岩体の一部が割れて、転落してできた巨大な岩のかたまりと考えられています。

《 沿岸部の天然記念物 》

仙酔島の海食洞と仙酔層の岩脈（鞆町）



海岸線には、仙人が酔うほど美しいと言われる五色の岩の層が確認できるね。



仙酔島や周辺の島には、波の浸食作用を受けてできた海食洞窟や洞門が数多く見られます。また、複数種の岩石が堆積した地形になっているため、浸食された岩肌には、様々な層が見られます。それらは、独特の海岸美を形成し、「鞆公園」として国の名勝に指定されています。

(2) 自然の景観



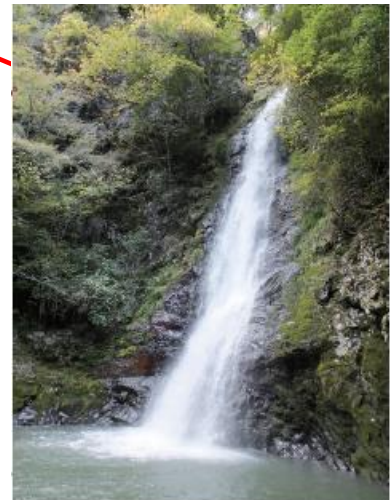
同じ福山市なのに、地域によって、こんなに様々な景色が見られるんだね。



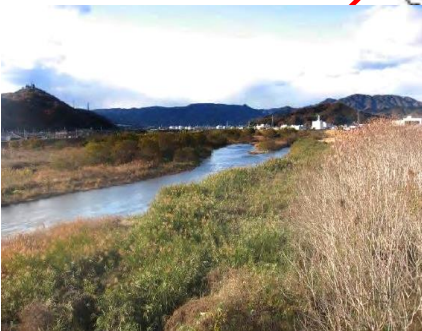
えんめいきょう
〔猿鳴峡(山野町)〕



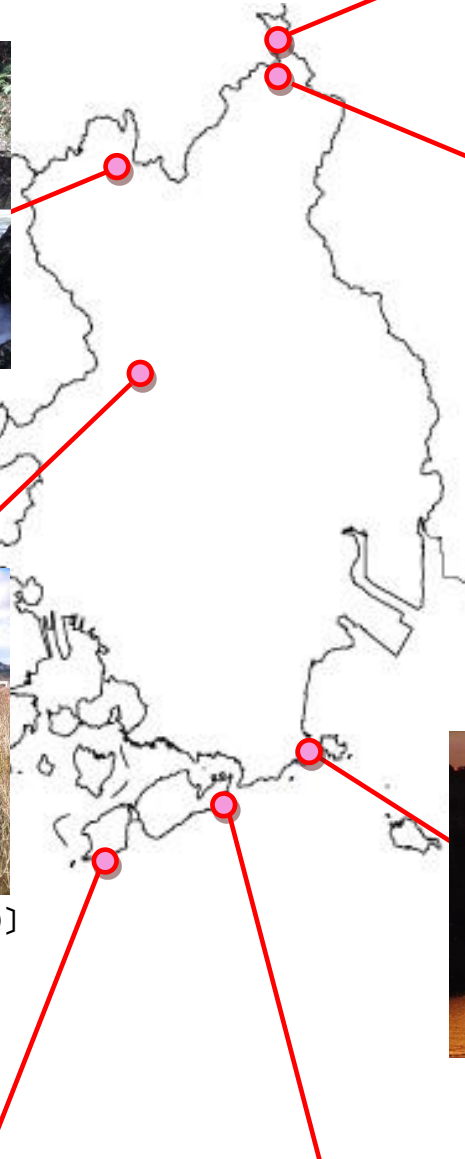
〔藤尾の滝(新市町)〕



りゅうず
〔龍頭の滝(山野町)〕



〔芦田川・佐賀田橋付近(新市町)〕



〔鞆の浦(鞆町)〕



〔横山海岸(内海町)〕



とびす
〔鳶が巣(内海町)〕

自然・環境

芦田川

1 芦田川の特徴

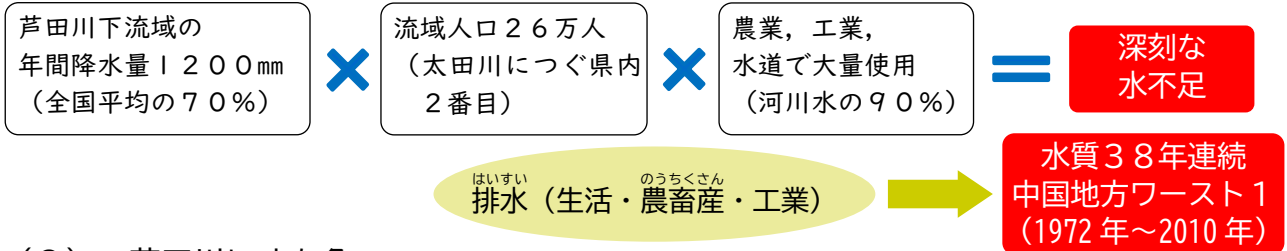
(1) 芦田川の現状

芦田川は、三原市大和町蔵宗を源流とし、世羅台地や神辺平野を下り、福山市箕島町で瀬戸内海に注ぐ、全長86kmの一级河川です。

御調川や高屋川、瀬戸川をはじめとして82の支流が芦田川に合流しています。







出典：国土交通省福山河川国道事務所



(2) 芦田川にすむ魚

芦田川には、68種類 (平成23年現在) の魚が生息しています。芦田川全体では、オイカワ、カワムツ、カマツカが多く生息しています。また、貴重な種類として、メダカ、スジシマドジョウなどの生息が確認されています。

<p>オイカワ</p>  <p>全長：約15cm えさ：水生昆虫、コケなど 特徴：下流域から上流域まで、広い範囲にいるよ。</p>	<p>カワムツ</p>  <p>全長：約15cm えさ：水生昆虫、コケなど 特徴：下流域から上流域まで、広い範囲にいるよ。</p>
<p>カマツカ</p>  <p>全長：約25cm えさ：水生昆虫など 特徴：川底が砂の所にいるよ。普段は砂の中に潜ってじっとしているよ。</p>	<p>メダカ</p>  <p>全長：約4cm えさ：プランクトン、水生昆虫など 特徴：水田や小川に多いけれど、大きな川の流れの緩やかな所にもいるよ。</p>

出典：国土交通省福山河川国道事務所

2 芦田川と福山市

(1) 芦田川と人々のつながり

芦田川を利用して生活していた人々のくらしを紹介しましょう。

『日本国現報善悪靈異記』という本には、「府中に住む人が、お正月に必要な食べ物などを買うために、船に乗って芦田川を下り、深津で開かれている市に出かけた。」

定期的いちに市が開かれていた「深津」には、お金の両替りょうがえができる「銀行」のようなところもあったそうだよ。市のある日には、たくさんの方が集まったんだろうね。



ことが記されています。この『日本国現報善悪靈異記』という本が書かれたのは、今からおよそ1200年前です。飛行機や鉄道、自動車のない時代、大量の物資を運ぶときには船がよく使われていました。そのため、海に面した港には多くの食べ物や貴重な物が集まり、港を中心とした町はとても栄えていました。

芦田川は、港に集まった物を運んだり、港に買い物に来たりするための「道」となっていたのです。今の「高速道路」と言えるかもしれません。

ふるさと豆知識

地名から分かる昔の様子

地名に使われている漢字から、その場所の昔の様子が分かる場合があります。「深津」「奈良津」など、「津」のつく地名は、昔、港町として栄えた場所が多くあります。今では、海からはなれた場所も、海の近くの港だったようです。

では、「丘」のつく地名はどんな場所だったのでしょうか。

(2) 芦田川の洪水

福山市の工業、農業、人々のくらしを支え続けてきた芦田川。しかし、時として、川は大きな自然の力で、人々のくらしを壊こわしてしまうこともあります。テレビのニュースなどで、大雨による川の氾濫はんらん、洪水など見たことのある人もいるでしょう。

芦田川の恵めぐみを受けるために、福山の人々は、どのような努力や工夫をしてきたのでしょうか。

広島県立歴史博物館学芸員のお話

芦田川は、もともと洪水が多い川ではありませんでした。人々は、芦田川に寄り添そうようにくらし、恵めぐみを受けていたのです。しかし、技術の発達とともに、芦田川をより便利に活用できるように、川の流れを変えたりせきとめたりするようになりました。それにより、芦田川の洪水の被害ひがいが大きくなったとも言われています。

芦田川の洪水の被害と、芦田川の整備工事も、芦田川と福山の人々のつながりと言えるでしょう。

主な芦田川の整備と水害の歴史

○福山の町への洪水の被害を防ぐために、川を福山城から遠ざけて流す工事を行う。	1616年	
○福山の人々が、芦田川の水を生活に使えるように、上水道を整備する。	1622年	
	1641年	●大規模な土砂災害
	1673年	●大規模な洪水災害
	1919年	●大規模な洪水災害
		・死者 23人
		・壊れたり流されたりした家 271戸
		・水が入ってきた家 4215戸
○芦田川大工事が始まる。	1923年	
・川の急カーブに堤防 ^{ていぼう} を造る。	1945年	●大規模な洪水災害
・川と川を合流させて、川の幅 ^{はば} を広くする。		・壊れたり流されたりした家 2920戸
○芦田川大工事が終わる。	1961年	
○芦田川の水の量や勢いを調節し、水を利用しやすくするために、芦田川河口ぜき、八田原ダム建設を決定する。	1970年	
	1973年	●洪水災害
	1975年	●洪水災害
○芦田川河口ぜきの完成	1976年	
	1985年	●洪水災害
○八田原ダムの完成	1998年	●洪水災害
○新しく芦田川の整備の計画を立てる。	2004年	
	2018年	●大規模な洪水被害（観測史上1位となる記録的大雨）

川の整備の計画や工事には、長い年月がかかります。その間にも、人々は、大雨による洪水の被害などに苦しみました。しかし、決してあきらめることなく、今でも芦田川の整備の計画は続けられているのです。

そこには、福山市民の生活を支える芦田川への感謝の心が現れていると言えます。

3 環境改善の取組 ～ 芦田川の環境を改善するために ～

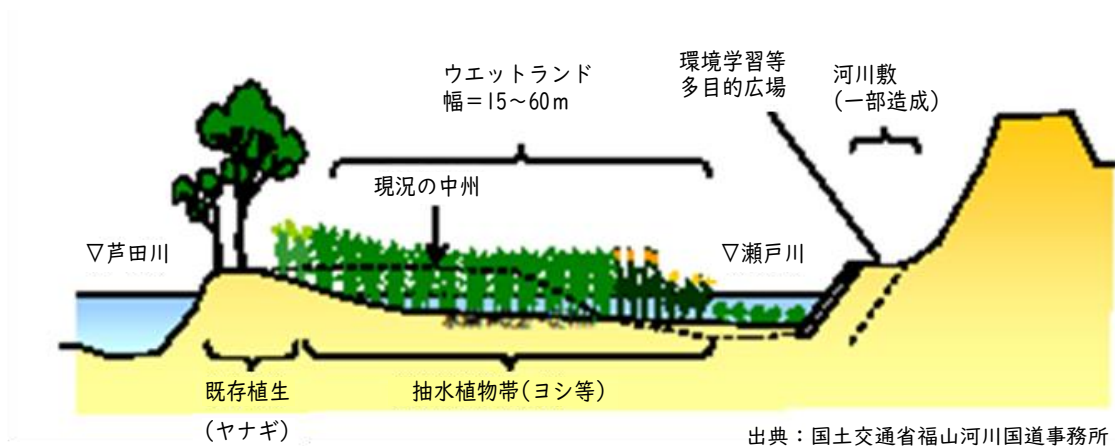
芦田川の水質改善に向けては、公共下水道の整備や浄化槽^{じょうかそう}の普及促進^{ふきゅうそくしん}をはじめ、様々な取組が進められています。

(1) 芦田川ウエットランド

芦田川の下流域の水質改善のために、「芦田川ウエットランド」を整備しています。

ウエットランドには、ヨシ類の植物がたくさん植えてあります。ヨシは、川の汚^{よご}れの原因であるリンを栄養にして育つ植物で、水質を浄化する効果があります。





(2) 芦田川環境マネジメントセンターの取組

芦田川の水をきれいにする取組として、2004年(平成16年)に「芦田川環境マネジメントセンター」が設立され、2007年(平成19年)から『芦田川きれい☆きれいプロジェクト』に取り組んでいます。みなさんも、ぜひ参加してみませんか。

【芦田川きれい☆きれいプロジェクト】

① 川の健康診断

パックテストによる水質調査とともに、川のごみ・川の濁り・水の汚れ・水の手ざわり・水のおいなど、人の感覚による調査を定期的に行っています。

② 水辺の学び舎

きれいな水にすむ魚や生物など、芦田川でよく見られる種類や貴重な種類などを調査し、観察をしながら『芦田川さかなマップ』を作りました。

③ 河川浄化チャレンジ月間の取組

水の汚れが目立つ支流地域を中心に、家庭でできる水をきれいにする取組を行いました。それぞれの家庭が取り組むことで、川の水がきれいになることが分かりました。

芦田川をきれいにするための17のこころ

芦田川環境法17条

家でできること

>>>キッチン編

いくつできているか
試してみてください。

- ①流しの三角コーナーや排水口にはネットを敷くなどして、調理くずや食べ残しを流さない。

>>>キッチン編のぬい、

- ②鍋や食器などの汚れは、紙で拭き取ってから洗う。
- ③食用油は直接流さず、紙に染み込ませたり、固めたりして捨てる。
- ④余ったお湯やワインなどは流さず、料理用に使う。
- ⑤米のとぎ汁は桶水や節桶の水やりを使う。
- ⑥料理は余分な量を作らない。調理くずが出た時は桶水や節桶水の肥料に使う。
- ⑦水道の水は出しっぱなしにしない。
- ⑧アクリルタワシを使って洗剤の使用量を減らす。

>>>お風呂編

- ⑨シャブー、リンスの使用は、ひかえめにする。

- ⑩風呂の残り湯は、洗濯や桶水・節桶の水やりを使う。

>>>洗濯編

- ①洗濯はまとめて洗うなどして、洗剤の使用量を減らす。
- ②流しすぎをひかえて、ためすぎにしない。

外出先で

- ⑬山や海、川に行ったら自分のゴミは持ち帰る。
- ⑭栄き缶、たばこの投げ捨てはしない。

>>>日頃編のぬい、

- ⑮環境にやさしいエコマーク商品を購入的に使用する。
- ⑯浄化槽は定期的に点検・清掃する。
- ⑰身近な水路や川に関心をもち、積極的に清掃活動等に参加する。

>>>お風呂編のぬい、

芦田川は、台所排水や洗濯排水など、日常生活から出る排水が汚れる原因の一つになっています。そこで、芦田川をきれいにするために、『環境法17条』を『さしい17のこころ』をまとめた『環境法17条』を作りました。これは、みなさんが身近なところでできる実践活動です。地域のみなさんと協力して、きれいで輝く芦田川を取り戻すため、できることから始めましょう。

AEMC 芦田川環境マネジメントセンター

出典：芦田川環境マネジメントセンター

「芦田川環境マネジメントセンター」の具体的な取組を知りたい人は、
<http://fm777.co.jp/pc/aemc/> をみてね。



(3) 福山市芦田川漁業協同組合

福山市芦田川漁業協同組合では、ウナギやフナを養殖し、芦田川に放流する活動を続けています。芦田川の魚を絶やさないようにと始めたのがきっかけでした。毎年3月・4月頃に、河口せきで上流に上がってこれなくなったシラスウナギを1匹ずつ捕獲します。3時間かけて10匹しか捕獲できないこともあります。捕獲したシラスウナギを養殖場で大切に育て、毎年10月頃には、8000～10000匹のシラスウナギを放流します。放流には、近くの小学校の児童も参加し、芦田川の水をきれいにする、生き物を大切にするなどを学習しています。

芦田川漁業協同組合 小林組合長さんのお話

私たちが子どもの頃、学校から帰ったら、よく芦田川で遊んでいたんだよ。いろんな魚がたくさんいたんだ。友だちと魚を捕まえたり、川で泳いだりして、遊ぶ場所が「芦田川」だったんだ。「芦田川で育った。」と言っても間違いないね。だから、芦田川に対して、いい加減なことはできないんだ。自分を育ててくれた芦田川を大切にするために、漁業協同組合の仕事は、これからも一生懸命続けていきたいね。



〔シラスウナギの放流をする光小学校児童〕

4 地域の川や海を守るためにできること

私たちの生活は、芦田川によって支えられています。

芦田川は、古くから多くの生き物のすみかとなり、地域の人々の憩いの場となり、豊かな自然として、ずっとわたしたちのくらしやこの町を支えてきたのです。

その豊かな自然は、人々の手によって守られてきました。水をきれいにする取組、生き物を大切にする取組、それらに携わる人たちの願いは、「芦田川を大切にしたい。」という思いです。

しかし、その願いは一人で叶えられるものではありません。

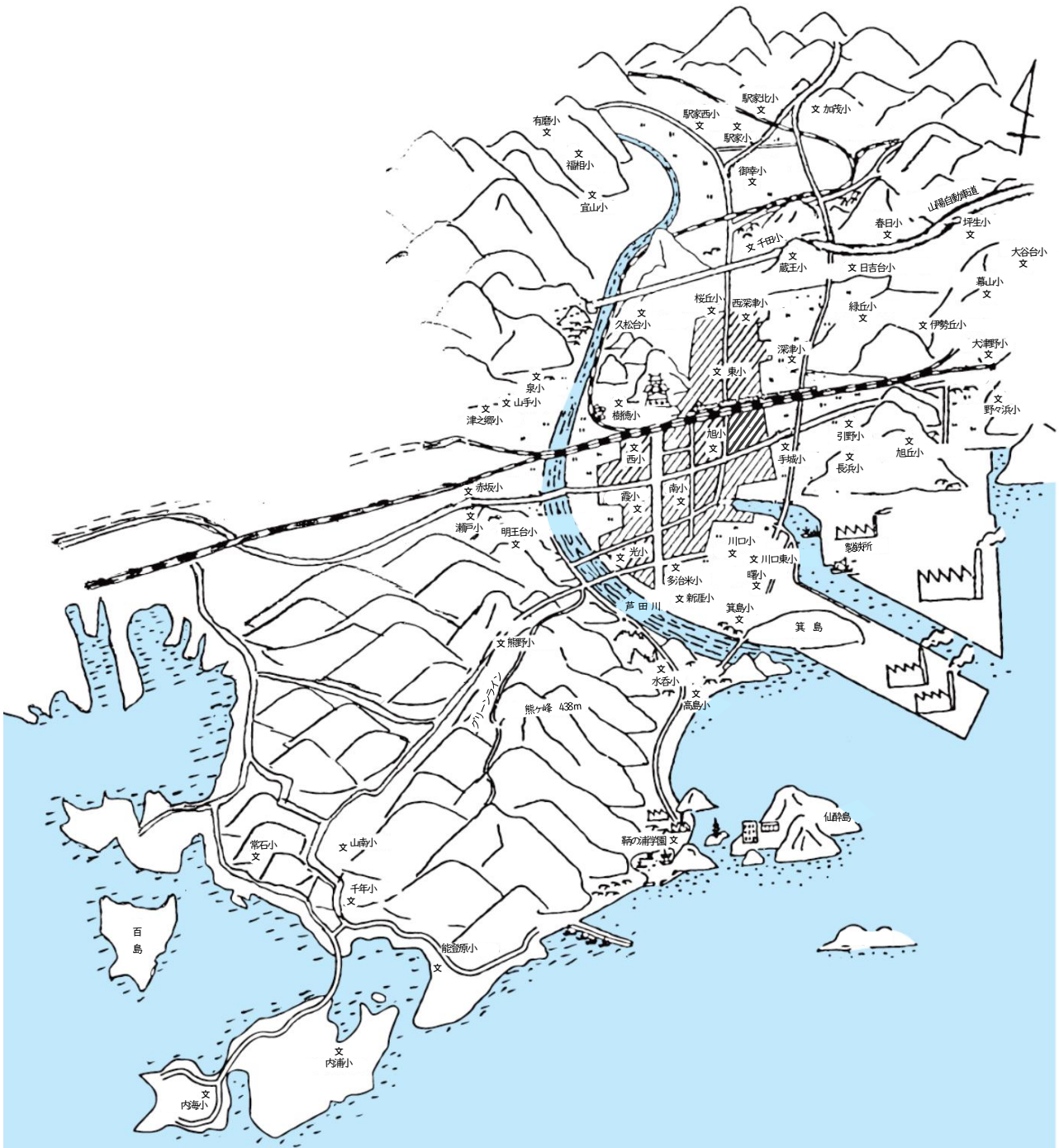
みんなで取り組むからこそできるのです。

先人が守り大切にしてきた芦田川を、今度はわたしたちが守り、次の世代へつないでいかななくてはならないのです。私たちにできることは何でしょう。一人一人が進める一歩が、未来の大きな一歩へとつながるはずです。

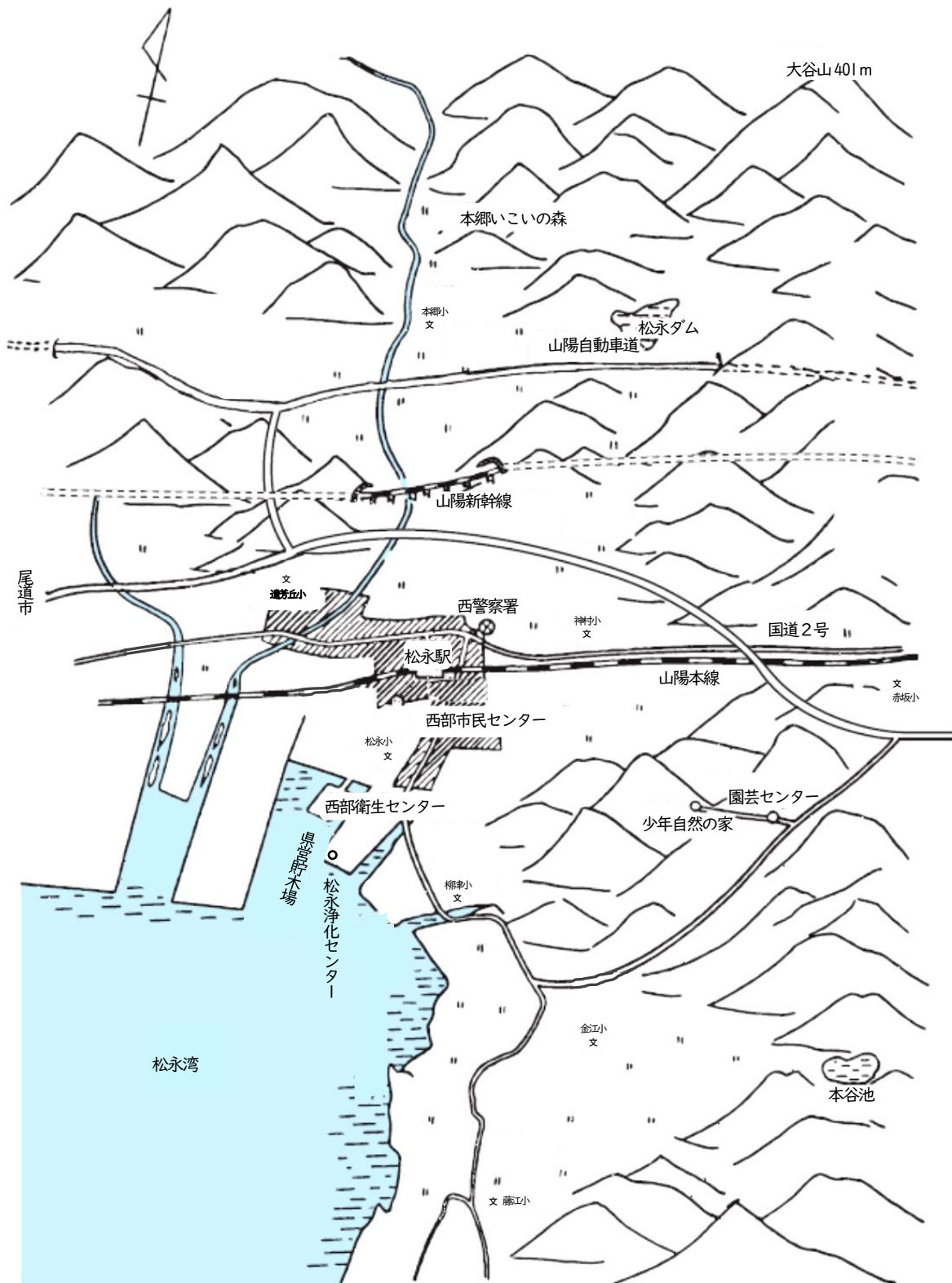
自然・環境

福山市の様々な地図

1 くまがみね 熊ヶ峰にのぼって



2 大谷山にのぼって



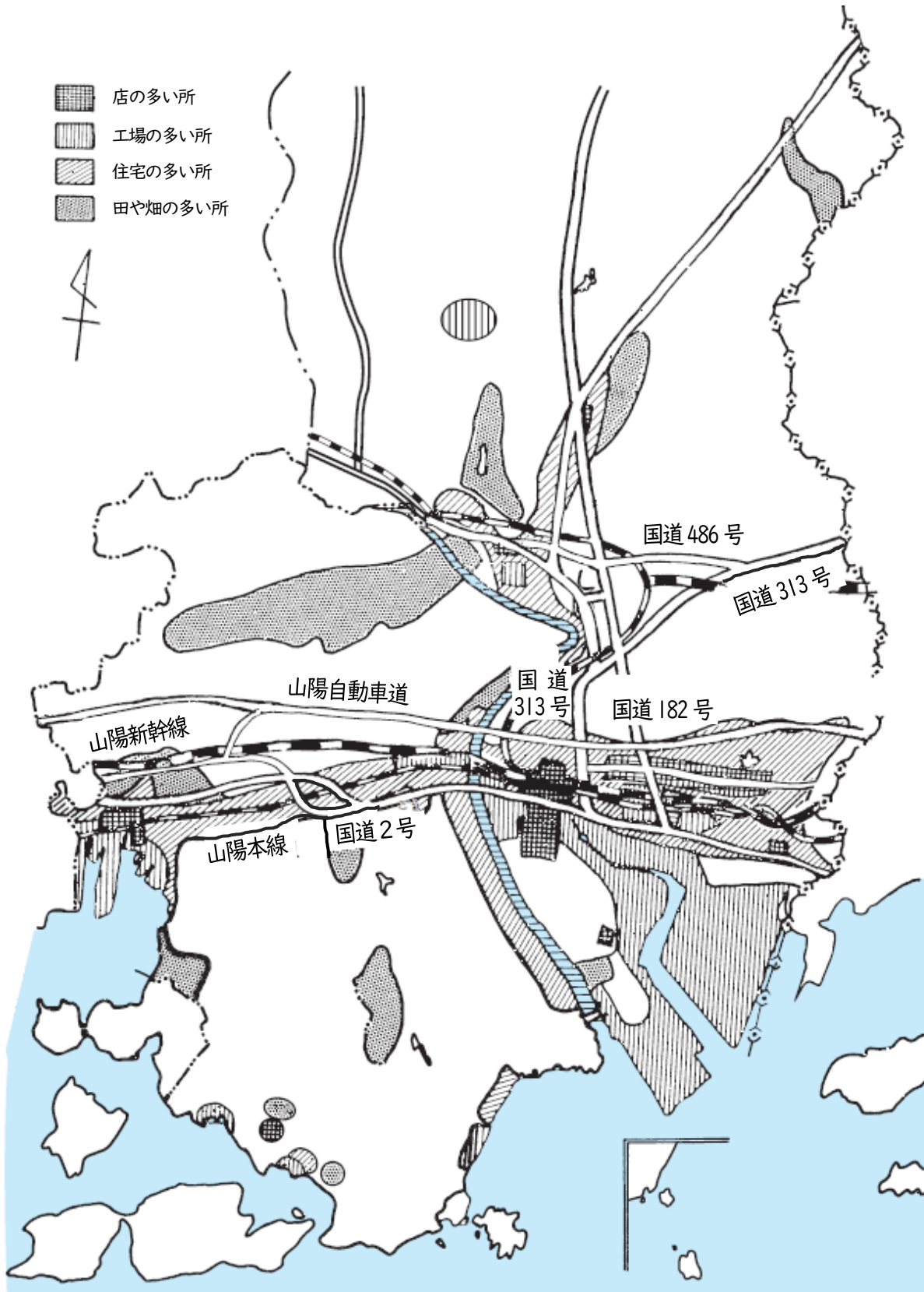
3 じゃえんざん 蛇丸山にのぼって



4 交通の様子



5 土地の利用の様子



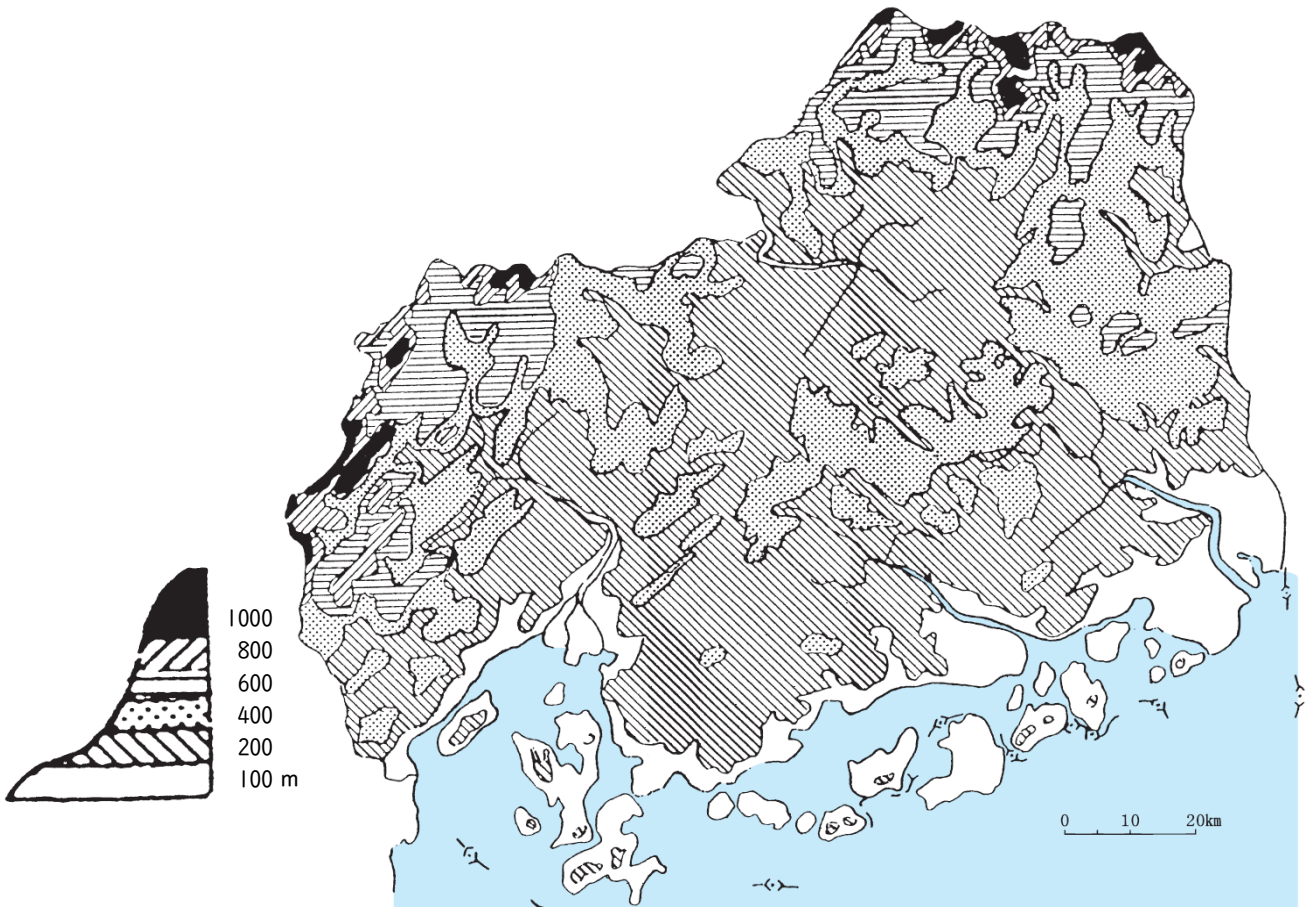
自然・環境

1 広島県の地形や様子

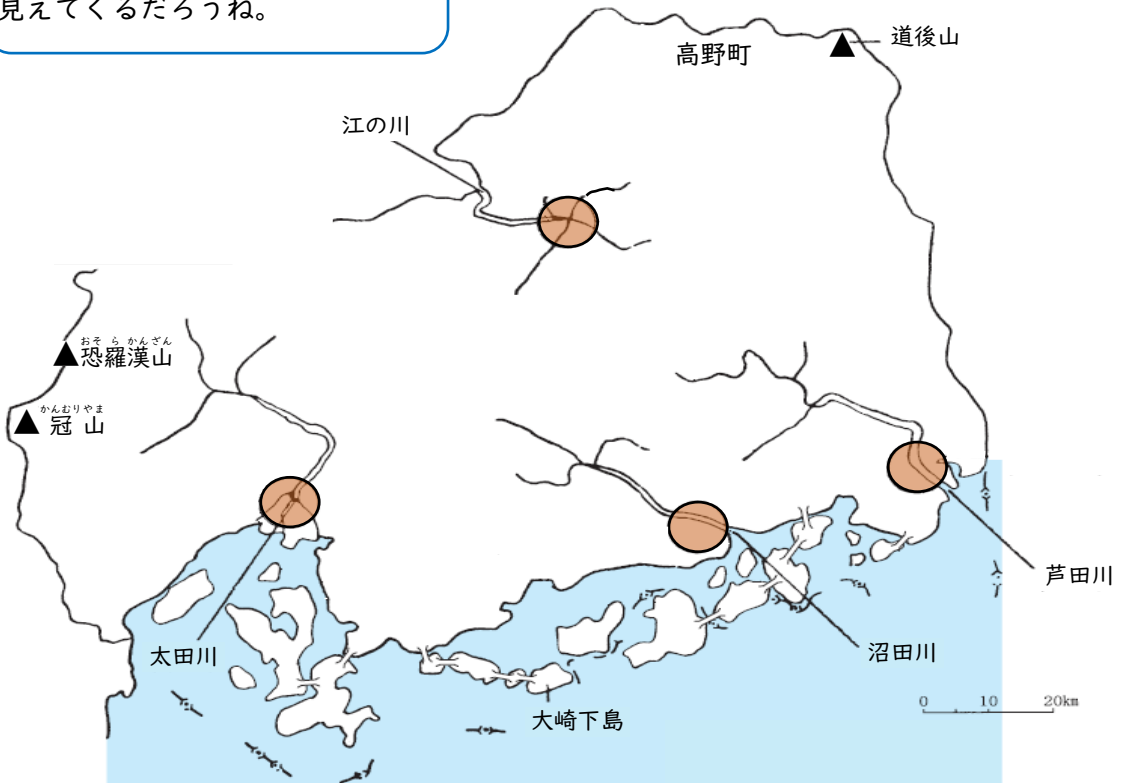
(1) 広島県の地図

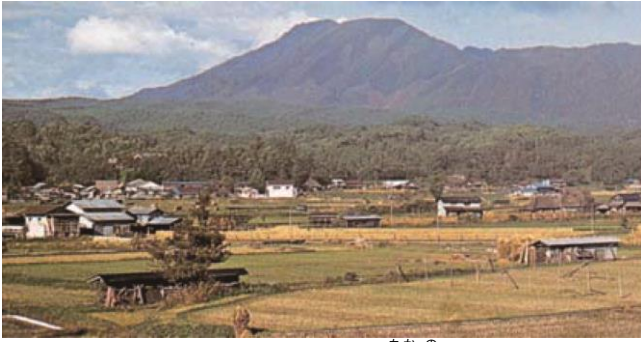


(2) 広島県の土地の様子



2つの地図から、どんなことが
見えてくるだろうね。





〔中国山地（庄原市高野町）^{たかの}〕



〔なし畑（世羅郡世羅町）〕



〔瀬戸内海の島々（呉市豊町）〕



〔三次盆地〕

（3） 広島県の様子

北や西の県境には中国山地が広がり、道後山・冠山^{どうご かんむり}など、高さが1000mを超える山々が連なり、その周りは、なだらかな高原になっています。

太田川・沼田川・芦田川^{おおたがわ ぬまたがわ}の河口には、上流から運ばれた土や砂などによって、平野が広がっています。これらの平野には、広島市・三原市・福山市などの大きなまちができました。

中国山地などの山に囲まれた盆地の中で広いものは、三次盆地と西条盆地です。これらの盆地には、三次市や東広島市など、その地方の中心になるまちが広がっています。

広島県内には、大小約150の島々があり、景色の美しさから国立公園に指定されています。山が海岸近くまでせまっているため、平地が少ししかないのも特徴^{とくちょう}です。

2 福山市と違う土地の暮らし

(1) 庄原市高野町（広島県で一番北の町）

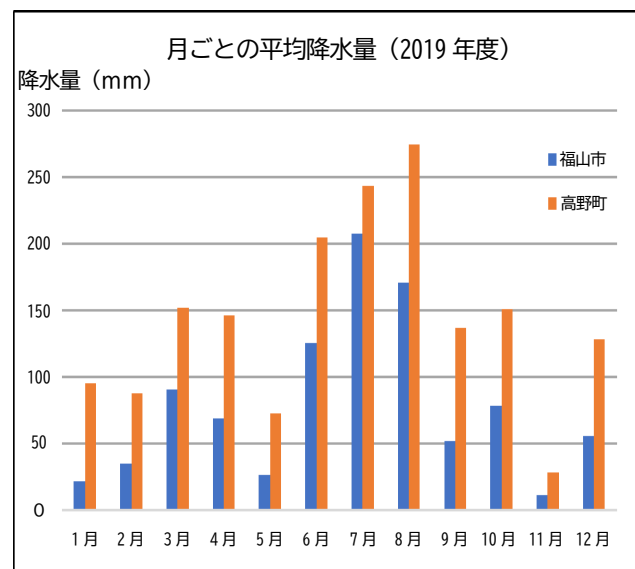
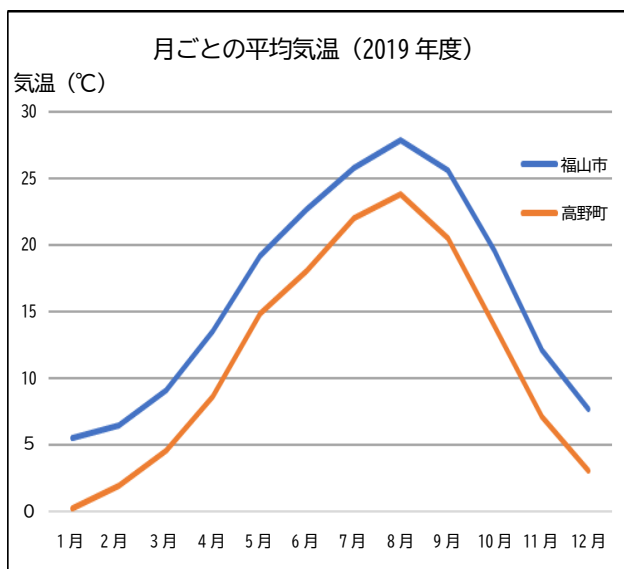


福山での暮らしと比べることで、様々なことが見えてくるね。



ア 土地の様子

広島県の最北の町、庄原市高野町は、中国山地の山あい、高さ500mの所にあります。周りには1000mを超える毛無山などの高い山があります。山地から流れ出る大量の水は、町内の中ほどを流れている神野瀬川かんのせがわに集まり、町の西にある高暮ダムこうぼにたまり、三次盆地へと流れていきます。その後、江の川えのかわと合流し日本海へ流れていきます。土地が高いため、一年間を通じて気温は低いです。内陸部にあるため、夏は昼間と夜の気温の差ちがが大きくなります。また、夏は短く、冬が長いのも特徴です。冬になると雪が50cmから70cmも積もります。多い時には1mを超えることがあります。



〔福山市と高野町の気温と降水量〕

イ 米作り

高野町の川沿いに広がる平地では米作りが盛んです。夏が短く冬が長いので、農家の人は、稲を育てるためにいろいろな工夫をしています。寒さや病気に強く、早く育つ品種を選んで、4月の始めから、電熱育苗器で苗を育てます。その頃から、雪がとけたばかりの田へ、堆肥を入れて、田のあらおこしをします。5月になるとすぐ田植えを始め、9月には稲刈りが始まります。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米作り	高野町			福山市								
				もみまき			田植え			稲刈り		
大根				じかまき			取り入れ					
りんご	雪から木を守る 土づくり・剪定・ ハチの管理・放飼			消毒・追肥 害虫対策 袋かけ作業			<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> しゅうかく 収穫 しゅっか 出荷 </div>					

〔高野町の農業〕

それぞれの地域で、農業のやり方を工夫しているんだね。



ウ 地域の特徴を生かした農業

(ア) 夏の大根作り

大根は、高野町北部（和南原）を中心に作られています。この辺りの土地は、黒っぽい火山灰土で、深く柔らかい土地です。この土は大根作りに適しています。また、大根は、福山では冬に多く作られますが、高野町では、涼しい夏を利用して、6月から11月にかけて取り入れができるようにしています。高野町は、広島市や呉市、福山市の市場へ、毎日大根を送っています。

(イ) りんご作り

庄原市高野町で作られるりんごは、甘くおいしいと大変人気があります。それは、高野町の気候が、年間を通して涼しく、昼と夜の気温差が大きいからです。りんご農家は、芽を守ったり育ちをよくしたりするための剪定作業や、実を害虫などから守るための袋かけ作業など、様々な工夫をしてりんごを作っています。



〔りんごの木〕



〔出荷前のりんご〕

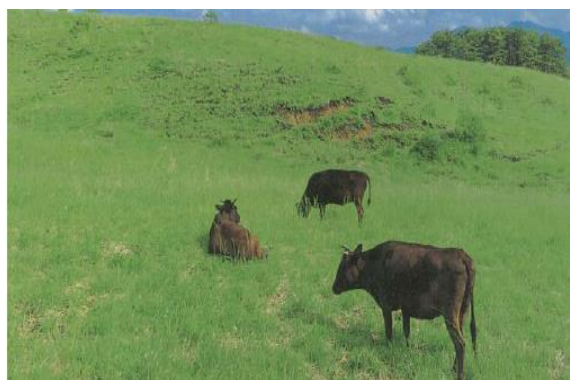
特に気をつかうのは、春にりんごの芽を守ることです。りんごの芽は0度以下になると、そのままではだめになってしまうので、農家の人たちはその時期にスプリンクラーで水をまき、芽を凍らせることで0度以下になることを防ぎます。以前は、石油を燃やして暖かくし、霜などで温度が下がることを防いでいました。その頃の費用は、1ヘクタールの農家一晩で、およそ12万円でした。現在の方法では、およそ1万円です。こうした工夫と努力によって、高野町のリんごは評判のよいものになっているのです。



〔凍ったりんごの木の枝〕

(ウ) 広島牛を育てる

農家では、発育のよい広島牛の親牛を飼って、子牛をふやして三次家畜市場へ送っています。高野町では、1978年（昭和53年）に毛無山に牧場（牛肉センター）を作りました。センターでは、農家の忙しい5月始めから10月の終わりまで農家から牛を預かり、それぞれの牛に合ったえさをあたえて世話をしています。また、お腹に赤ちゃんのいるめす牛を育てて、農家に売る仕事もしています。その他、冬になると、乾燥した牧草を農家に分ける仕事もしています。



〔毛無山ぼく場〕

エ 冬のくらしの工夫

12月の終わりに降った雪は、根雪として残り、さらに3月まで雪がよく降るため、町全体は雪に覆われます。家々の屋根は、降り積もった雪で家が傷まないように「あぶらがわら」や「かわらぼう」にしたり、また、一度に雪が滑り落ちては危険なため、「雪どめ」をつけたりもしています。冬の間は、町の人々は力を合わせて雪下ろしをします。

商店街の道路の片側には、幅70cm、深さ1.2mぐらいの「流雪溝」を作っています。雪下ろしをした雪や道に積もった雪を流雪溝に落とし、ポンプでくみ上げた水でとかして流す仕組みにしているのです。また、「除雪車」が出て、道路に積もったたくさん雪を取り除く作業もします。春から秋にかけて忙しかった農家の人々も、冬は雪のために田や畑での農作業ができにくくなります。そこで、リンゴの木を守ったり、牛の世話をしたり、除雪作業などの仕事をしています。

学校では、子どもたちが、鉄棒まで隠れるほど雪の積もった運動場で、雪合戦などをします。学校から遠い所に住んでいる小・中学生は、スクールバスで通学しています。

最近では毎年「スポーツ雪合戦」の大会が開催され、県内はもとより、近くの県から多くの人たちがチームを組んで参加しています。積雪の多さを利用して、地域を盛り上げようとする工夫もしています。



〔雪どめのあるかわらぼう〕



〔流雪溝〕



〔スポーツ雪合戦の様子〕

(2) 呉市ゆたかまち豊町
(広島県で一番南の町)

ア 島の様子

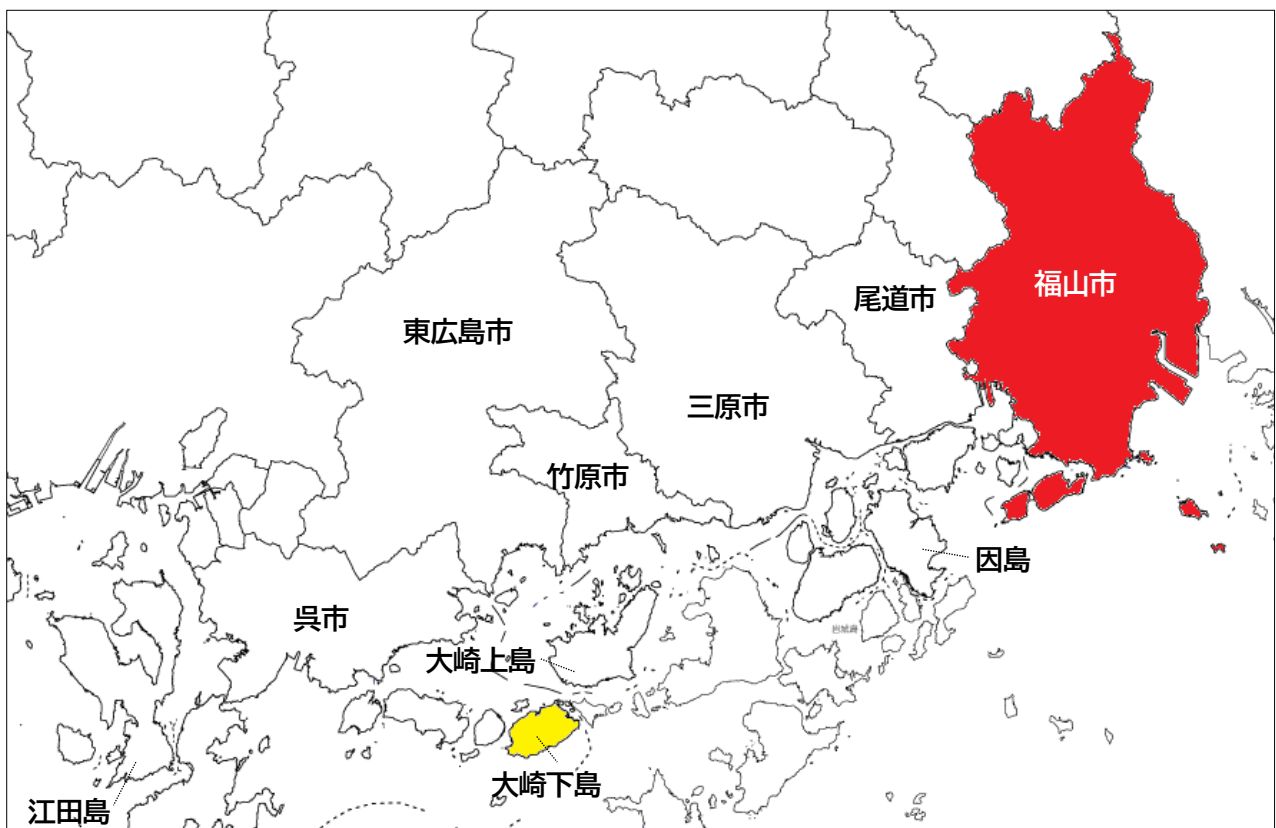
広島県の南に広がる瀬戸内海には、大小多くの島々があります。大崎下島は、瀬戸内海のおおさきしもじまのほぼ中心で、竹原市の南西約20 kmの所にあります。海をへだてて大崎上島かみじまや愛媛県のおかむらじまの岡村島があります。



〔大崎下島のみかん〕

大崎下島には、豊町とよはまちょうと豊浜町があります。豊町は、大崎下島を中心に6つの小さな島を合わせた町で、昔からみかんの産地として有名です。

豊町には、高さ448 mのいっぽうじやま一峰寺山があり、急な斜面が海岸まで延びています。このため、町には川らしい川もなく、平地も少なくなっています。



イ 地域の特徴を生かした農業 —みかん作り—

豊町で作られた温州みかんは、「大長みかん」という名前で知られています。みかん作りの様子について、みかん農家の人にたずねてみました。

農家の人の話



みかん作りには日当たりと水はけが大切です。島は平地が少ないので、山の斜面に段々畑を作ることによって、日当たりと水はけがよくなります。夏にしっかり日光を浴びて、甘くておいしいみかんになります。

昔は、みかんがいっぱいの「しよいこ」を背負って、急な段々畑から里の農家まで運んでいました。今では、山の上の畑まで軽トラックで行けるよう、人々が共同で大きな道を整備したり、ケーブルやモノラックを取り付けたりしたことで、楽にみかんを農道まで出し、トラックで家まで運べるようになりました。時期をみて、家から選果場に持っていき、そこで形・大きさ・甘さなどをより分けて、箱に詰め、まとめて大型トラックに積み、全国に送り出しています。

全国で作られているみかんも、同じような場所や条件で、作られているのかな。



〔モノラック〕



〔選果場の様子〕



〔港につながれた農船〕

農家の人の話



わたしたちは、朝早くから、フェリーボートや農船で他の島までみかんを作りに行っているんだよ。豊町の人は、昔から、まわりの島や愛媛県の島にも土地を買って、みかん作りに出かける『出作』^{てさく}をしているんだよ。

農船というのは、長さ10mぐらいの木造船で、みかんを運ぶのに使っているんだよ。

朝5時前から仕事に出かけ、行くのに1時間以上かかる所もあるし、風や潮の流れの影響^{えいきょう}も受けやすいから、大変な時もあるんだよ。



〔フェリーボートや農船でみかん作りに出かけて行くところ〕

J A（農業協同組合）の人に、おいしいみかんを作るための工夫をたずねました。

J Aの人の話



豊町では、1902年(明治35年)にみかん作りが始まりました。多い時には全国の早生みかんの半分を作るほど、盛んだったんだよ。

しかし、1972年(昭和47年)頃から、他の地域でもみかんの生産量が増えて、値段が下がり、苦勞して作ったみかんを捨ててしまうようなことが起こったんだよ。そのため、生産量を減らし、みかんを日光のよく当たる所に植えたり、摘み取る時期を考えたりして、味や形のよいみかんを作る工夫をしているんだよ。

近頃では、みかんの木のまわりに白いビニールを敷いて、太陽の光を反射させ、いい色がつくようにしたり、雨水があまりしみこまないようにしたりして、甘くておいしいみかんを作る工夫をしているんだよ。

様々な工夫が考えられているんだね。





〔平地にうねを作るみかん作りの様子〕



〔ビニールをしいたみかん作りの様子〕



1990年(平成2年)からは、「ハウス栽培^{さいばい}」も行われ、天候に関係なく、夏に出荷できる甘くておいしいみかんを作る努力もしているよ。

また、「豊^{ゆたか}マンダリン」や「デコポン」など、かおりがよくて甘い、新しい種類のみかんを作る努力もしているんだよ。

特に、全国の1/4の出荷量をもつレモン作りでは、農薬を使う時期を書いたカレンダーを作って、安全のために努力しているんだよ。

働く人の高齢化^{こうれいか}によって、畑の近くまで車で入れる農道を作り、みかんや肥料を運びやすくもしているよ。また、機械で甘さを調べて、より甘くておいしいみかんが出荷できるようにしているんだよ。



〔ハウス内のみかん〕



〔段々畑のようす〕



たしかに、手間のかかる大変な仕事だけど、みんながおいしいと言って食べてくれる顔が見たくて、一生懸命^{けんめい}がんばって、みかんを作っているんだよ。

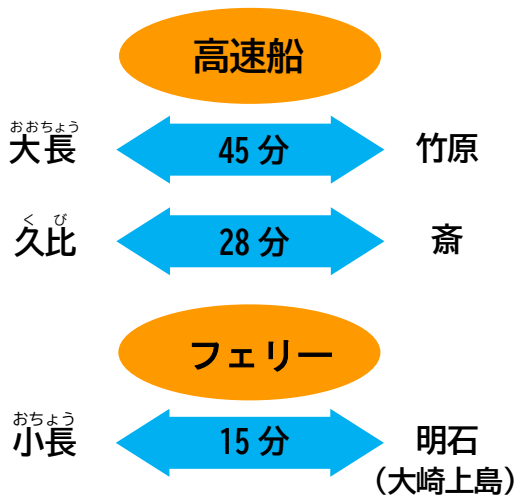
ウ 島の人々の暮らし

役場の人の話



島の人々の生活に欠かせないのが船です。仕事や買い物に行くときや、学校に通うときに使っています。島には、3つの港があり、竹原・川尻^{かわじり}・明石^{あかし}・斎^{いつき}・愛媛県の今治^{いまばり}などへ高速船やフェリーが出ています。

町は、4つの地区に分かれており、島のまわりを通る県道、農道で結ばれています。大崎上島のさんようバスが、バス路線の延長をして、走っています。幼稚園^{ようちえん}の子どもや小・中学生も、そのバスを使って学校に通っています。働く人たちの半数以上は、農業で暮らしをたてています。そのほとんどは、みかん作りをしています。その他には、漁業をしたり、島にある工場へ働きに行ったりする人もいます。



〔大崎下島と船で結ばれている町〕



〔港のようす (大長港)^{おちようこう}〕

島のおばあさんの話



ふだん暮らしにいるものは、島の店で買うんじゃけど、昔は、「渡海船^{とかいぶね}」という船の運送屋さんに頼んで買ってきてもらったんじゃ。

今は、渡海船じゃなくて、トラックで野菜や食料品・日用雑貨品などを配達してもらっとるんよ。自分で、フェリーに乗って買いに行かなくてもいいから、とても助かっとるんよ。



〔渡海船〕

配達をしているおじさんの話



台風の日でも、渡海船で物を運っていたけれど、船が古くなってね。危ないからやめようと思ったけれど、島の人たちに、「ぜひ続けてくれ。」と言われてね。今では、愛媛県の今治市などで買ってきてトラックで運んでいるんだよ。



〔渡海船にかわるトラック〕

役場の人の話



島の水は、昔はため池や井戸を使っていたんだよ。しかし、雨の少ない時は、水不足で困っていたんだ。それで、1974年(昭和49年)から、まわりの島々と一緒に、広島市の太田川から海底パイプで水を送ってもらうようになって、心配はなくなったよ。電気は、竹原から大崎上島を通して送られてきているんだよ。

1992年(平成4年)には、大崎下島の豊町と豊浜町がある豊島を結ぶ豊浜大橋が完成し、人々の生活も大変便利になったんだよ。

1998年(平成10年)には、大崎下島と愛媛県の岡村島が橋で結ばれたんだよ。そして、2008年(平成20年)には、島に住む人たちの長年の願いであった豊島大橋(愛称「アビ大橋」)が完成して、4つの橋で呉市とつながったんだよ。そのおかげで、時間を気にせず、安心して島から出たり帰ったりできるようになったんだよ。



〔岡村島への橋〕



〔豊島大橋(愛称「アビ大橋」)〕

島の人々の生活は、多くの人の努力に支えられているんだね。



役場の人の話



島のくらしも便利になってきたけれど、1955年(昭和30年)頃には、9000人ほどいた人たちも、若い人たちが他の町で働くために島を離れるようになり、今では約2100人(2015年(平成27年現在)ほどに減ったんだよ。そのうちの半数以上が、65才以上のお年寄りなんだよ。

そこで、近頃では、島の若い人たちが中心になって、産業文化祭などを開いたり、マーマレードなど、みかんを使った特産品を作ったりして、町おこしをしているんだよ。町をよくするために、いろいろな使い方ができる公民館を作ったり、港を大きく作り直したり、農道を整えたりもしているんだよ。

また、1989年(平成元年)から、YCN(豊町ケーブルネットワーク)というテレビ局を作り、島のくらしに大切な情報を全部の家に届けているんだ。現在は、2010年に統合され、呉市有線テレビジョン放送施設になっているんだよ。



〔産業文化祭の様子〕



〔YCN(豊町ケーブルネットワーク)〕